

福井県衛生環境研究センター研究員活動報告 概要

発表演題名	下水流入水に含まれるノロウイルスモニタリングの試み
学会名	平成19年度地研東海北陸支部微生物部会
発表者名	東方 美保（保健衛生部）
開催場所	名古屋市 アイリス愛知
開催日時	平成20年3月6日（木）
発表内容	ウイルス性の急性胃腸炎感染症や食中毒の原因となるノロウイルスは、感染者の腸内で増殖し、糞便中に排泄され、下水や河川水に流れ込むと考えられる。そこで、平成15年4月から平成20年2月上旬までに、月1～2回採取した下水流入水を対象に、汚染状況のモニタリングを試み、ヒトでの流行状況と相関性があるかどうかを検討した。 感度の高い nested PCR 法での陽性率は、GenogroupI(GI)が 44.4～91.3%、GenogroupII(GII)が 77.3～100%と高いものの、ヒトでの非流行期にあたる7～11月に陰性となりやすい傾向がうかがえた。またリアルタイム PCR 法(定量検査)で得られたノロウイルス遺伝子量の変動パターンと、感染症発生動向調査における感染性胃腸炎患者報告数の変動パターン・福井県内で確認したノロウイルス陽性検体の時期的分布(小児散発例および集団発生事例)には、かなりの共通性が確認された。例えば平成19年度は過去の年度にくらべ、感染性胃腸炎患者報告数やノロウイルス陽性検体がかかなり少なかったが、それと相関するように、下水で検出されたノロウイルス遺伝子量レベルは全般的に低かった。